

# 4年連続全国大会出場！ JRC部が新聞に採り上げられました

平成30年9月16日（日） 中日新聞 尾張版

掲載許諾番号 20180919-21694



## 創作狂言で

稲沢市祖父江町の杏和高校JRC（青少年赤十字）部の九人が、来月七日に鳥取県米子市で開かれる「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」に出場する。四年連続の本選出場で、今年は郷土の歴史と災害をテーマにした創作狂言を通じて、共生することの大切さを訴える。狂言と手話という異色の組み合わせに苦勞を重ねながらも稽古に励み、悲願の初優勝を目指す。

（秦野ひなた）

## 杏和高が挑む

大会は、全国初の手話言語条例を制定した鳥取県で開かれ、五回目。高校生が手話で歌やダンス、芝居などを披露し、正確さや表現力を競う。今大会には六十チームが応募。ヒデオ審査予選を勝ち抜いた二十チームが本選に臨む。杏和は七位で通過した。

## 手話甲子園 初優勝目指し汗

今回披露する狂言は、尾張四観音の一つ、あま市の甚目寺観音が舞台の「おそそ仁王」。天災で親を亡くした坊さんと尼、二人をたまして秘仏の仁王像を盗もうとする仏師に化けたキツネが登場する。キツネの親が災害が原因で疫病を患っていることが分かり、人間とキツネが力を合わせキツネの親を救うストーリーだ。部員九人が演者や小鼓、能管の演奏者として舞台に立つ。

JRC部はボランティアで地域のイベント運営への協力や募金活動、高齢者施設への慰問を行う。部活で学ぶ手話を使う機会にしようとして二〇一五年から大会へ出場し、昨年はミュージカルを披露して準優勝した。

やまかわさん（右から4人目）の指導を受けながら狂言の稽古に励む生徒たち。稲沢市祖父江町の杏和高で